

ごあいさつ

代表取締役社長

押 味 至 一



株主の皆様には、格別の御高配を賜り厚く御礼申し上げます。

平成28年4月1日から平成28年9月30日までの第120期上半期の営業概況について御報告申し上げます。

当上半期の世界経済は、金融市場や新興国経済の先行き不透明な状況が続き、全体として弱い回復に留まりました。

我が国経済につきましては、個人消費は力強さを欠き、また、民間設備投資は円高進行による企業収益の悪化等から伸び悩むなど、景気は足踏み状態となりました。

国内建設市場におきましては、建設投資は公共投資や首都圏における再開発投資等に支えられて底堅さを維持し、労務需給は安定的に推移しました。

こうした中、当社グループは、前期から「中期経営計画(2015～2017年度)」に掲げた単体建設事業の再生・強化に向けた取り組みを集中的に推し進めてまいりました。

その結果、当上半期における当社グループの連結業績は、単体建設事業の利益率向上を主因に、前年同期に比べ大幅な増益となりました(詳細については3ページ以降に掲載しております)。

今後の我が国経済につきましては、世界経済の先行きに懸念はあるものの、政府による各種政策の効果等が下支えとなり、景気は緩やかに回復していくと期待されます。

国内建設市場におきましては、建設投資は公共・民間ともに堅調に推移すると見込まれますが、工事量の増加と施工の集中に伴って資機材・労務費の高騰が懸念されます。

このような中、当社グループは持続的な成長と企業価値の向上を実現するため、「①単体建設事業の利益率向上 ②先駆的な価値ある建設・サービスの提供 ③成長に向けたグループ経営基盤の確立」を基本方針とする中期経営計画をグループ全体で着実に推進しております。

特に、単体建設事業につきましては、今後想定される繁忙とコスト高騰に向けた備えとして、社員の機動的な配置や協力会社との協働により施工体制を確実に構築するとともに、省力化技術の開発やICTの活用等により生産性の向上を図り、繁忙期においても業績を維持・向上できるよう努めてまいります。

また、中長期的な収益源の拡大に向けて、当社グループの強みを活かせる事業領域である国内開発事業、海外の建設・開発事業及び建設の上流・下流分野に係る事業につきましては、計画的な取り組みによって事業基盤を強化してまいります。

さらに、グループ経営基盤の確立に向けて、当社グループの将来を見据えて最大の経営資源である人材を育成し、技術の継承と発展を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも何とぞ格別の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年12月